



TITLE:

(随想)Franciscus de Pedimontium

AUTHOR(S):

清水, 圭三

CITATION:

清水, 圭三. (随想)Franciscus de Pedimontium. 泌尿器科紀要 1959, 5(2): 65-66

ISSUE DATE:

1959-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111723>

RIGHT:

泌 尿 器 科 紀 要

第 5 卷 第 2 号

昭和 34 年 2 月

随 想

Franciscus de Pedimontium

名古屋大学教授 清水圭三

今から 700 年程前と云えば、鎌倉時代北条時宗（1251—1284）の頃、日蓮上人や蒙古来襲の時であるが、その時既に遊走腎に就て深い観察が行われ、原因、症状、治療に就てはつきり記載されていることは全く驚異と云わなければならないので少しく紹介してみたいと思う次第である。

Franciscus de Pedimontium (1250—1319) は “De dislocatione renum et vesicae et medicinis eius” と題して腎の変位に就て書いた初めての医師であると信じられているが、泌尿器科の文献に彼れの意見をみることは少ない故に、その記載に就て探究することは興味のあることである。そこで Peter A. Narath が *Urologia Internationalis* に書いていることを少しく引用してみる。

Franciscus は Terra di Lavarò の San Germano に 1250 年頃に生れているが誕生日は不明である。Salerno で医学を修め、後に Naples の大学の教授になった。そして Naples King Robert, 又 Sicily の Robert de Aujon の侍医 (1265?) になり、1319 年 Naples で死去している。

彼れの書いた項目の終りには *helps of Christ or God* と書いてあることから彼れが非常に信仰の厚い人であつたことは確かである。その頃 Salerno, Bologna, Padua の大学は国際的に名声を博していたもので、彼は又 “*Supplementum Mesuae*” の有名な著書の執筆者の一人であり、此の本は又此の時代の代表的著書の一つであつた。

此の本の中に “De dislocatione renum et vesicae et medicinis eius” の項をみる。即ち “The dislocated kidney and the bladder and its treatment” で今日当初の原本は存在しないが、若しあるとすれば Italy の図書館のどこかにあるであろう。

その最も古いものが Canada の Montreal の McGill 大学の Osler 図書館 (Osler 7611 号) にある。その Section 1. Particuller 4. Summ 2. Chapter 4 の中にかかれていてるものでそれが Fig. 1. で 1442 年 7 月 2 日版のものである。又 1478 年の *Incunambula* 印刷の初版のものがアメリカの Ohio, Cleveland の Army Medical Library (Klebs 680.8) の医学史の中にある。それによると “*Francesco di Piedimonte Complementum Practicae mesue venice nooi magio january 31, 1479*” としてあるが、此れは 1442 年版のものとその内容は全く同じである。又 London の Royal Society of Medicine に 1491 年版のものがあつて、1442 年版のものと全く同じである。又 New York Academy of Medicine のものは 1508 年版で Fig. 2. に示すもので語辞は全く同じであるが、Chapter number が僅に異なるものである。

その本文の大略を紹介すると、腎の位置の異常は時々起るもので、膀胱にも起ることがある、若し位置の転位が起ると腎は右、左の下方に下垂して転移して、色々の障害や、排尿困難が起つてくる。

転移の真の原因はその靱帯の弛緩と牽引組織の断裂により起るもので、その原因には外的と内的の原因があり、内的には湿気と寒気が加わると組織が軟弱となり、麻痺が起り、冷水

